

短編集 #あれそれがないと生きていけない より

# 「あれもそれもないと

# 生きていけない

千代 飼森の幼馴染。部屋の片付けができない。

飼森 千代の幼馴染。アパートの管理人をやっている。

三木 飼森の友人。ハウスキーパー。

千代、ひとりで部屋にいる  
チャイムの音

飼森 おはよ

千代 …おはよう

飼森 入っていい？

千代 だめっていったら帰ってくれんの？

飼森 いや、帰らんけども

千代 じゃあ、どうぞ

飼森 おー

飼森 …やっぱりかー

千代 はい。

飼森 まあ、入れるの渋る時点でそうだろうと思っただけさあ

マジでなんもやってないじゃん。

いや 座るところは作ったし

千代 最低限すぎるだろ

飼森 こっちだって、無理って事前に言ったじゃん。

千代 どうせやるんだから。そんなこと言ってる場合じゃないって

千代 だから、どうせやるんだから 別にやっておかなくていいでしょ

飼森 あのさあ そんなん言ってるからこうなったんでしょ

千代 わかってるよ

飼森 不機嫌

千代 別に。

飼森 いや あのさ、俺、無理矢理やらせようとしてないよな？

千代 それは …微妙

飼森 微妙！？ え、俺、無理矢理やらせようとしてんの！？

千代 無理矢理って言うのじゃないけどさ

飼森 じゃあなんだよ

千代 それはその… ほら、「コレ」。

飼森 金？

千代 まあ、その節はある

飼森 まあ〜〜 まあいいけどさ、それでも！

千代 お前マジで、ふつうこんなことないからな、めっちゃくちゃ感謝しろよ

飼森 感謝は、してるよ。

千代 ならいいけどさあ

チャイムの音

飼森 あ、来たかな 出ていい？  
千代 うん

三木 おはようございます、アイケークリーニングの三木です！  
って、ああ、飼森じゃん

飼森 ごめんごめん、もう来てたんだわ どうぞ  
三木 はーい お邪魔します

三木 あ、おはようございます！ アイケークリーニングの、三木と申します。  
千代 あ、はい よろしくお願ひします

三木 千代さん、ですよね。

飼森 そうそう 千代、三木ね

千代 いま聞いたよ 三木さん、そのへんに座ってもらって。

三木 はい

三木、部屋を見回す

飼森 どう？ 実際。

三木 ん？ ああ、まあ、いったんここだけでいいんでしょ？

飼森 いいよな？

千代 うん

三木 まあ、そんな 本当にヤバいってレベルじゃないよ

飼森 マジ？ よかった。じゃあ改めてだけど、今日はこのへ、千代の部屋

お願ひします。

三木 謹んでお請けします。

飼森 格安で受けてもらっちゃってスマンな

三木 いいよいいよ、友だち価格ってことで

ただし、他の部屋でも似たようなことがあったらウチにね？

飼森 営業上手だなw

三木 このくらいはまあ？ で、えーと、千代さんも改めてよろしくお願ひします。

千代 よろしくお願ひします。

三木 飼森の幼馴染？ なんだっけ。

飼森 そう。地元戻ってきたタイミングで家探してるって言うから、

じゃあ俺とこのアパート空いてるよってなって。

三木 そっちも大概、営業上手じゃん

飼森 まあな？ あ、三木、こんな感じでもいい奴だから

千代もあんまり遠慮しないでいろいろ言えよ

千代 わかった

飼森 で、このあとって、どう進めんの？

業者に部屋掃除してもらって、俺はじめてなんだけど。

三木 んー、まあ、部屋見せてもらったり、どうしたいか聞いたりって感じだけど

千代さんは、どうしたいとかあんまりない？ んですかね？

千代 まあ、そうですね。うーん、どうしたいとかは。

飼森に言われてって感じなので。

飼森 そうなんだよね 千代の部屋、引越して来てすぐくらいからこんな感じでき、

もうごっちゃごちゃなんだよね。

最初はまあ、片付け嫌いなのかな、意外だなくってくらいに思ってたんだけど、

どんどん増えてくばっかで、全然モノ減らないから。

なるほどな

飼森 幼馴染のよしみで半額出すから、一回業者に頼んで片付けないかってことで

三木に声かけてみたって感じ。

三木 千代さんは、片付けたくないってわけではないですか？

千代 はい、部屋のなかでなくしものとか多くて、不便だし

飼森 「コレ」がなんとかなるならいいかって話らしいよ

三木 オッケーw なら、まあ、とりあえず床が見えるくらいになればって感じかな

飼森 そうだな

千代 なんか、すいません

三木 いやいや、掃除ってめんどくさいですよ、

それでウチみたいなの職業があるわけですから。

千代 めんどくさいっていうか？

飼森 元々はもうちよっと片付けておこうと思ったんだけど、俺も手伝えなくてさ

三木 いや、それは別にいいけど

千代 ほら

飼森 ほら、じゃねえよ

三木 改めて、部屋、ですけど

三木、部屋を見回しながら

三木 飼森が言ったように、モノが多い……って感じですよ。ゴミとかじゃなくて。

千代　そうですね。

飼森　部屋はこうだけど、衛生的な問題？　は起こしたことないよな

千代　うん

三木　なるほど…

三木　千代さん

千代　はい？

三木　えーっと、モノを運び出したりとか、そういうのはこっちでやるんですけど。片付けていくにあたって、千代さんのなかのモノの基準を知っておきたいくて。モノの基準？

三木　はい　もちろん、これから部屋のものは減らしていくんですけど

千代　千代さんがほんとに残したいものは残しておきたいじゃないですか

千代　ああ…

三木　どうでしょう？　なんか、ありますかね、そういうの。

千代　わかんないんですね

三木　わからない？

千代　はい　なんていうか、あれもそれも、「ほしいな」とか「いいな」って思っ  
て手に入れたものなわけじゃないですか

だから、どれがいらないかって自分じゃわからないです。

もったいなくなっちゃう、ってことですか？

…もったいないというか…　うーん、そうなのかな。

…

三木　飼森、そんな心配そうにすることないよ

飼森　えっ、ああ

三木　千代さんも　片付けが苦手な人のなかにはけっこう多いですよ

皆さんいろんな理由がありますけど、とにかく捨てられないって

どうすんの？　そういうとき

まあ一緒に考えていくしかないよ

三木　飼森　そんなことまでしてくれんだ

業者にもよるだろうけど、ウチはやってる。

なんで、まずは千代さんのそのラインを見つけてみましょうか

わかりました。

三木　千代　例えば、ですけど…

三木　このへんの、紙袋の類とか？　どうですか。

便利そうに見えるのわかりますけど、一年使ってなかったら使わないですよ（笑）

千代 紙袋：… それ、誕生日のときに、人からもらったものが入ってたんです  
飼森 あ、たしかに！ その黒いの俺がデイフューザーあげたときのか？  
千代 うん、多分そう。  
三木 あゝ、思い出の品だから捨てられない、みたいなの？  
千代 思い出：… そうです。  
三木 ご友人思いなんですね。  
千代 そう、かもですね。  
三木 じゃあ、マンガとか本とかってどうですか。  
千代 皆さんけっこう躊躇われますけど、思い切ると一気に場所あきますよ。  
飼森 なるほど  
千代 千代って、そんなに読書とか好きだった？  
三木 好きってほどじゃないけど…  
千代 じゃあ  
三木 せっかく集めたし、その中からどれがいらないか、また選べないです。  
三木 あゝ、なるほど  
三木 えっと、じゃあ これ、観葉植物の鉢？ ですかね。  
千代 ああ  
飼森 枯れちゃってんじゃん。  
千代 うん、なんか、はじめてだったから上手く育てられなくて。  
三木 ハイドロカルチャーの小さい子たちだから、捨ててもいいと思いますけど  
千代 いいんですかね。  
三木 可哀想ですか？  
千代 可哀想っていうか：… いいのかな、って。  
飼森 枯れてるし、なんか悩む理由あるか？  
千代 そうだけど… 欲しかった、し、あったほうがいいものかなって。  
飼森 枯れててもあったほうがいい理由、俺はわかんないけどなあ  
千代 うゝん、まあ、そうか。  
三木 …いや、悩むなら残しておきましょう。いったんね。  
飼森 いいの？  
三木 ヒアリングと見積もりで終わるとか、普段もまああるから。  
飼森 飼森の依頼ならまあ、次回また来るくらいはしてもいいよ。  
まじかよ、感謝すぎる  
三木 気にしないで、千代さんも  
千代 (スマホ見て)…あ

飼森 ん？

千代 今日、荷物とどくの忘れてた 受け取りボックスに入ってるみたい

飼森 おいおい、いま片付けてんのにまた増やすんかよ。

千代 仕方ないじゃん、たのんじゃってたんだから。

：三木さん、行ってきてもいいですか。

三木 いいですよ、もちろん

千代 じゃあ、少し、行ってきます。

飼森 ったくも〜：

### 千代 OUT

飼森 ごめんな、なんか

三木 いや、別にいいって こういう部屋になる人、っていうのはわかってるし

飼森 まあ、そうだけど

三木 …あのさあ、飼森

飼森 ん？

三木 なんかさー… 千代さんってどんな人？

飼森 どんな？ だから、こういう部屋になる人、って

三木 いや、それはそうなんだけど …話してて見えてこないんだよね

飼森 みえてくるもんなの？ ふつう

三木 うん もちろん、その人のぜんぶじゃないけどさ、

モノに対する価値観、って人柄出るんよ

飼森 あゝ、なんか、なるほどな。俺だったら？

三木 なんだろうな 大事にできる人って感じはするけどね。

飼森 え、そうなん？

三木 なんとなくね。で、千代さんはそういうのが見えないわけ。

飼森 どういう、か〜： うーん、でもその「モノ」に対してって言うなら

昔から欲しがりではあったかもな。

三木 欲しがり？

飼森 子どもなんてそんなもん、って言ったらそこまだけどさ

ふだんワガママってわけでもないのに、モノに対してはこう、

あれも欲しい、これも欲しい、で叶わないと不機嫌になる、みたいな？

なんとなくそういう印象はあるかも。

三木 う〜ん：

飼森 またなんか、モノ増やすみたいだしな？

三木 そうだね　なんか、もったいない　とも違いそうなんだよなあ  
飼森 そうなん？　俺はそれなのかなって思ってた。

三木 いや、もったいないって言う人って、理由あるんだよ。

飼森 理由？

三木 これはお高かったから、とか、思い出があるから、とか。

もったいないの理由が出てくると、整理してあげやすいんだけど。

飼森 理由：　アイツも言ってはいたけど、なんかフワフワしてたな

三木 そうなんよ　だから聞いたんだけど：　わかんないな

飼森 ……

三木 飼森？

飼森 いや　：うん、どうなんだろうな

三木 まあ、自分の周りにモノが多いと安心するって人もいるから、それかもね

飼森 …あのさあ、三木って、なんで俺と仲良くしてくれてる？

三木 え！？　急に何、どういう話題？　はず。

飼森 いや、まあ、ちよつと。

三木 えー…　なんだろうな　高校んときから、ふつうに、いい奴だからじゃない？

話してて楽しいし。

飼森 なるほど

三木 正直もう馴染みもあるから、理由とかって言われてもむずかしいよ

飼森 馴染み、まあ、そうだよなあ

三木 なに？

飼森 うん、いや、なんでもないんだけど

三木 そうなん？　えー。なに…

千代、戻ってくる

千代 ただいま

飼森 おー、おかえり　荷物って、なに？　それ。

千代 うん　デパコスの期間限定品。

三木 お好きなんですか、そういうの？

千代 好き…っていうのじゃないけど、欲しいなと思って。

三木 なるほど、まあ、いいですよね。

千代 ですよね。

飼森 ……

三木 じゃあ、続きやりますか。

飼森 三木、ちよつと待って。

三木 ん？

飼森 あのさ、三木だったらさ、どうやって決めんの？

三木 え？

飼森 千代がきめるの 難しそうだから、例として、みたいな

いるもの、いらぬもの、ってどうやって決めるのかなって。

三木 ああ… それは、俺個人の？ ってこと？

飼森 そうそう

三木 うん いや、職業柄もあって相当ドライよ？

飼森 いいよ な？ 千代

千代 うん …うん、聞いてみたいかも。

三木 千代さんがそう言うならって感じだけど

なんていったらいいんだ あー、インフラ的なもの、かな。

飼森 インフラ？

三木 たとえばスマホとかPCとか 1週間ぶんの服とか、冷蔵庫とか、そういう感じ。

飼森 たしかにドライだなww

三木 いやもちろん、ほかがいらないってわけじゃないけど

「なくなったら生活詰む」っていうのが基準になるかな

これさえあれば生きていける、みたいな。

飼森 俺はそこまで割り切れないな

三木 いや、それはそうよ、ほんとコレは極端だから。

飼森 まあ、うん… うん

三木 なんか、三木の言う、これさえあれば生きていける、ってさ？

飼森 うん

飼森 こう、ものすごい不便なこととかがなく 当たり前の生活ができる、って感じ…

だよね。

三木 あー、まあ、そうだね、うん。 そんな、ちゃんと考えてないけど。

飼森 それでいくと、俺の「生きていける」は、不便がなければいい、

だと足りない かもしれない。

俺は、自分の周りにいる人が好きだからさ

その人たちからの、信頼とか、愛情とか、そういうのがないと

「生きていける」って多分思えない。

三木 おお？ おお…

飼森 俺も、スマホとかは生活に必須だけど、理由が三木とは違う感じ。

人とつながるためのものだから、みたいなの。

三木 あーまあ、言いたいことはわかるし、俺もそういう気持ちはあるけど

飼森ほどじゃない…かもしれない。

飼森 だろ。三木はそういうところあるよな。

三木 まじ？ なんかちよつとやじゃない？

飼森 そんなことないよ ……千代は、改めて、どう？

千代 え？

飼森 俺とか、三木の話きいて。千代はどう思う？

千代 どうって言われても…… わかる、よ、どっちの言ってることも。

飼森 わかる、か。 どっちも、千代は思うってこと？

千代 うん。

飼森 じゃあ、千代の「欲しい」ってどこから来てんの？

千代 「欲しい」？

飼森 そう。昔からさ、欲しがりだから。

千代 わかんない……よ。いろいろだけど、欲しいって思ったたら、欲しいじゃん。

飼森 さっきのもそうだけど、好きじゃないものまで欲しがるよな

千代 それは、あるじゃん。好きとか関係なく、あつたほうがいいなつても

飼森 枯れた観葉植物でも？

千代 だって、よく言うじゃん、植物のある生活はいい、とか、そういうやつ？

三木 え そういうことなんですか？

千代 ちがうんですか？

飼森 そういうのは、枯れてない植物のこと言うんだよ。

しかもあればいいってもんじゃなくてさ、世話してて心が満たされるとか、

眺めて癒されるとか、そういうのがあるから、良いって話だよ。

千代 わかってるよ

飼森 たぶん、わかってないんだよ。

三木 ……飼森？

飼森 昔から不思議だったんだよな、千代の「欲しい」ってみてて分かんないから  
でも、そういう 「あつたほうがいい」っていうんだつたら、納得できる。

千代 何、どういうこと

飼森 千代はさ、この部屋のもの、何がいるか、いらなにかわかんないんだろ

千代 うん

飼森 あれもそれも、全部、千代が生きていくために必要なんだろ

千代 そう、思う 自分ではね。

飼森 うん だから…… たぶん。

千代は、いままでずっと 「あつたほうがいい」らしいものを、

「ほしい」と思って集めてきてるんだよな

「あつたほうがいい」ものを手に入れたんだから、それを捨てたらどうなるのか、  
わかんなくて、なんか悪いことが起きるような気がしてんじゃないの。

千代 ……そう、かも。 でも、だから今日、三木さんにきてもらってんじゃん。  
三木 え？  
千代 ぜんぶ、必要に思えるけど。でも部屋がこれじゃ不便だから、  
プロの人から「なくてもいい」ものを教えてもらおうと思って。  
三木 ……なるほど？  
飼森 そうか。そういうことかあ。  
千代 なに？ 飼森だって、そうしてほしかったんでしょ。  
飼森 ……  
三木 えーっと。それは…  
飼森 三木、いいよ。  
三木 ん…  
飼森 千代は、三木に期待しすぎだよ。  
千代 え？  
飼森 いや、わかんない、もしかしたら、それでもいいのかもしれないけど。  
千代 ……俺は、そういうことじゃないと思う。  
千代 なにが  
飼森 俺も、三木も、千代の考えが知りたかったんだよ。  
この部屋のなかで、千代が生きていくために必要なものはわからなくても  
千代にとって生きていくってどういうことなのか、知りたかった。  
三木はそういう質問をしたんだよ。  
千代 ……それなら。できるだけ、良いほうがいいよ。人生も、生活も、良いほうがいい。  
飼森 だから、良いってなんだよ。  
千代 知らない、それはいろいろあるじゃん。  
飼森 そうだよ、いろいろあるよ。  
三木みたいな変わらず当たり前の生活を送ることも、  
俺みたいに好きな人たちに好きでいてほしいのも、  
あととはなんだ、すっかり稼ぐとか、いわゆる丁寧な暮らしとか、  
めっちゃくちゃ色々あるんだよ。  
千代 だから、それがいいんだってば。  
飼森 「それ」って「どれ」って話。  
千代 わかんない、全部だよ。  
飼森 全部、はないんだって。みんな、選んでるんだよ。  
自分にとって生きていくってどういうことで、そのために何がほしいのか。  
千代 ……  
三木 あの… 飼森、そのへんはほら、色々あるし…  
飼森 俺は 俺にとっては、千代も好きな人だよ。

千代 …え、なに。それは、わかってるよ、ありがとう？

飼森 うん たぶん、自分が好きだけでいいって人もいるけど

俺はちょっと足りなくて …「見返り」がないとダメなんだと思う。

千代にも信頼してほしいし、好きだと思ってほしい。

千代 どういうこと？

飼森 だから… だからさあ、千代にとっては、俺も

「あつたほうがいいから欲しい」のひとつなんじゃないのって。

…

飼森 別に、俺がいないと生きていけないとか言ってほしいわけじゃないし

特別なものが欲しいわけじゃない、それこそ、ただの「馴染み」とかでもいい

でも、千代って俺にそういうのあるの？

千代 ……

飼森 俺に、じゃなくてもいいよ 千代が欲しい、必要だ、っていう

あれにも、それにも。 そういうのあんの？

千代 …わかんない。

飼森 そうだよな それならさ。千代は手に入れるだけ手に入れて、

自分で捨てたことがないからわかんないんだろうけど

捨ててみたら案外、ぜんぶ、なくっても千代は生きていけると思うよ。

…なにそれ、よくわかんないこと、言わないでよ。

飼森 この部屋だって、こんなにたくさん、あるのに。

実際は なんにもないのと同じだろ。

沈黙

三木 見積もり、あとで、送ります。

飼森 三木？

三木 今日、決められることじゃないと思うから、いったん帰るわ。  
でも、

三木 たしかに、飼森の言う通りさ、いまはなんにもないのかもしれないけど。

それでも、千代さんが生きていけるなら、別にそれでもいいんだと思うよ。

飼森 ……まあ、それも、わかってるけど。

三木 ほんとに？ ちょっと、飼森だってムキんなってるじゃん。

飼森 いや、それは、まあ

三木 千代さんは 集めるのは上手だよ、

いいらしいってだけでここまで出来る人もさ、なかなかいないんだから。

ただそれで本人が不便になっちゃってるなら、たしかにね、

千代 飼森が言うように選んだり、整理しないといけないのかもしれないけど。  
…はい。

三木 でも、わかんないけど、たぶん。

三木 こんだけあるんだから、きつと、こんなかのどつかにはあるよ、きつと。

千代 はい。

三木 というわけで、帰ります。

アイケークリーニングは見積もりだけの場合は出張費とかもありませんのでね。  
次回、依頼してくれればいいんでね。

飼森 三木、なんか、ごめん。

三木 いいよ、ほれ、せめて見送らんかい。

飼森 わかったよ。

三木、飼森、Out

千代、部屋を見回す

飼森、戻ってくる

飼森 じゃあ… 俺も帰るわ。

千代 うん

飼森 ごめんな、なんか、いろいろ勝手言っつて。

そもそも、余計な世話焼いて。

千代 いや、…ごめん、こっちも、いろいろわかんなくて。

飼森 謝ることじゃないよ、たぶん。…うん。じゃあな

千代 飼森

飼森 ん

千代 あの… 飼森には、ある。

飼森 は？

千代 「あつたほうがいい」から欲しかっただけって、そうだよ、たしかに。

だから、ほかはわかんない、この部屋で、ほかはわかんない。

でも飼森は 飼森はあつたほうがいい、たぶん。

…

千代 ある…よ、たぶん。馴染みとか、信頼とか。好きとか。

飼森にはあるよ。

飼森 千代、

千代 だから 今日、別に、帰ればって思うけど。

たぶん、飼森は、捨てていいってならないから……………またね。

またね、で、頼むわ。 ……それだけ。

沈黙

飼森 こういうときは、「たぶん」って、つけんなよ、バカ！

おしまい

## 幕間「だれか」④

フジタ ○○で『(曲名)』をお届けしました。

いやあ、古今東西山手線のうちと外、スニーカーの靴跡こそ鳩の羽、  
というようなエピソードとナンバーでしたね。

「こりこりに懲りたゴリラ」さん、アリガトウございました。  
ハマユミさん、いかがでしたか？

ハマユミ ああ えーっと、えー…

フジタ さて、番組も終わりの時間に近づいてきました

ハマユミ え、ああ そこまでやるんですか

フジタ ゲストのハマユミさん、今日はいかがでしたか。

ハマユミ え、えーっと

フジタ ありがとうございます。

さて今日はハマユミさんに新作の裏側や執筆背景についても  
話してもらいましたが

ハマユミ あっ？ まってください、そっかそれもあるのか

フジタ ぜひリスナーの皆さんも、ハマユミさんの新作を手にとってくださいね

それでは次回のテーマやゲストについてですが…

ハマユミ わ、え、ちょっと待ってください

フジタ はい

ハマユミ ついていけないです

フジタ でもまあ、限られた時間ですから 流れをさらったほうがいいかなと

ハマユミ それを言ったら、新作の裏側や執筆背景… とか、練習してないですし

フジタ それは本番のほうがいいですよ

ハマユミ そうなんですか？

フジタ そうです

ハマユミ でも、私、たぶん緊張しちゃいますし

フジタ 「他人」の話から「他人の人生」を感じるのは、

そこに気持ちがあるからじゃないですか

ハマユミ ん？

フジタ わざわざ、そんなふうに思ったことなかったですけどね

流行の差し色も差しすぎると地元のイオンのプチプラブランド

って感じになっちゃいますよ。

ハマユミ いや、だから …フジタ語、考えちゃうんですけど。

フジタ 考えてもらうのは別にいいですよ。

ただ私が雰囲気で言ってるだけなので、それだけっていう。

ハマユミ それは、わかりましたけど

フジタ 「こっち側」は、こんな感じでだれかの他人になってるのかもしれないです

ハマユミ え

フジタ 雰囲気で、ワタシ語で そのほうが、きっと私の人生になるでしょ

ハマユミ えーっと… …フジタさんは、いつもそんなふうには？

フジタ いや？ 今日初めて考えましたし、結局これが好きだけです

ハマユミ ……私みたいに、それでうれしい人がいますかね？

フジタ それを狙うのはかえって大胆、ですね

ハマユミ はあ まあ、そうかもしれないですね

フジタ なんてあれ、緊張しすぎのハマユミさんよりはいいと思います

ハマユミ そうですね うん、そうですね

私も この世に自分だけなのかななんて思いながら執筆してる間は、

フジタさんみたいになってるかもしれない

フジタ それでいきましようよ

ハマユミ 善処します

フジタ はい 時間もほんともうすぐですから、楽しんでやってください

ハマユミ いやほんとに、 ……わかりました

フジタ 息抜きの間もなく、すみませんね

ハマユミ いえ 意外と、そんなこともなかったですよ

フジタ ならよかった ……それじゃあ、スタッフさんも準備大丈夫ですか？

フジタ うん ……大丈夫そうですね

ハマユミ はい

フジタ それじゃあ、さっそく はじめますよ

SE

フジタ 皆さんこんばんは、(公演日時)です。

『フジタの ステキで ムテキな お時間』

パーソナリティのフジタです。

M

テレビじゃ最近おいしそうなグルメの特集も増えまして、

下手な反省よりも歩いて棒にあたってはいる犬のほうが学びを与えてくれるって

そんな気持ちになる9月のはじめですね。  
リスナーの皆さん、今日も願います。

さて、まずは今日のゲストの紹介から。

最近新作を出したばかり、若手作家の濱弓いつきさんです。

ハマユミ 皆さんこんばんは 今日、よろしく願います。

えーっと… 皆さんの生活に、ちょっとだけ邪魔してきました。

フジタ ハマユミさん、よろしく願います

さて、今日のテーマは「〇〇がないと生きていけない」でして、

いやあ、たくさんお便りいただいています

引き続きこちら、公式SNSやメールまでお送りください。

ところで、ハマユミさんだったらなんになりますか？

ハマユミ そうですね、私だったら…

📺がフェードアウトし、終幕